

【所信】より良くするための変化

【事務局長】古野 智章

事務局は地味でつまらない。そんなイメージを持つ方も少なくはないでしょう。かく言う私も同様です。なぜなら、事務局は必携や名刺の作成に始まり、年3回の総会運営や各種会議での議事録作成などが主であり、対外に向けた大掛かりな事業を担当するわけではないからです。兎にも角にも縁の下の力持ち的な役割であるということは言うまでもありません。

もちろん、事務局には組織の基盤を支え、円滑な運営を図ることが第一に求められます。しかし、求められたことだけをただこなすだけでは、それは事務局にとって現状維持でしかありません。現状維持は衰退のはじまりです。組織を下支えするだけにとどまらず、組織のあらゆる物事に対して誰よりも強く当事者意識を持ち、主体性と積極性をもって取り組み、伝播させていくことが事務局の成長と言えるのではないのでしょうか。そして、その成長こそがこの組織、ひいては地域の成長に繋がると信じてやみません。

2024年度は事務局にとって大きな変化の年でもあります。組織面では、これまでにあった総務委員会がありません。実務面においては2023年度より移行を進めてきた必携の電子化が本格稼働いたします。また、これまで形骸化していたものを刷新し今の時代に即した方法で、実務面の合理化を推し進めてまいります。そして、一人ひとりが当事者意識を持った強固な組織とするために、まずは自らの行動をもって示していきます。

私は事務局長として松元専務理事の懐刀となり、本間財務局長、坂本特別理事と連携して、組織とメンバーの意識を変化させるべく邁進してまいります。